平成 27 年度 中央検査科 業務実績

成田 房恵1)*

要旨: むつ総合病院中央検査科 平成 27 年度業務実績を件数で表示した。中央検査科の理念「常に、患者さんの立場に立った満足度の高い医療に努め、正確なデータを迅速に提供できるように、新しい技術・知識の習得に努力する」 に則り、日々業務に取り組んでいる。また、チーム医療の一員として臨床支援に取り組んでいる。

キーワード:業務実績、24時間体制、臨床支援

PERFORMANCE REPORT

FY 2015 Performance Report of the Department of Anatomical Pathology and Laboratory Medicine

Fusae Narita1)

Abstract: Performance of duties in the 2015 fiscal year in the Department of Anatomical Pathology and Laboratory Medicine of Mutsu General Hospital was reported. Every day we work hard in conformity with the idea of our department, "We always make an effort to carry out medical practice according to the necessity of each patient, to provide correct data quickly, and to obtain new techniques and a higher level of knowledge". Also we work on clinical support as a member of the medical care team.

Key words: Performance report, 24-hour system, Clinical support

1) Department of Laboratory Medecine,
Mutsu General Hospital
1-2-8 Kogawa-machi, Mutsu, Aomori
035-8601,Japan
*Corresponding Author: F. Narita
(kensa-g@hospital-mutsu.or.jp)

Received for publication, August 12, 2016 Accepted for publication, October 5, 2016 1) むつ総合病院中央検査科

〒035-8601 青森県むつ市小川町一丁目 2番8

号

*責任著者:成田房恵

(kensa-g@hospital-mutsu.or.jp)

TEL: 0175-22-2111 FAX: 0175-22-4439

平成 28年8月12日受付

平成28年10月5日受理

はじめに

中央検査科では、「正確・迅速」を目標とし、 当院の基本理念「信頼される病院になる」に基づき、技術・知識・質の向上を目指している。検査 内容については患者さんの体内の血液や尿などの 検体を扱う検体検査部門、直接人体を対象とした 生理機能検査部門の二つに大別される。検体部門 は、さらに生化学・血液・血清・一般・細菌・病 理・輸血に分かれており、生理機能検査部門は、 心電図・脳波・呼吸機能検査・心臓血管超音波検 査などを検査している。

平成28年4月現在、中央検査科は病理医1名と 22名の臨床検査技師(内 細胞検査士2名)で構成し業務しているが、2名が育休取得中である。

休日・夜間は緊急検査・急性心筋梗塞などの心臓カテーテル検査への協力など 24 時間体制で正確・迅速なデータを提供している。

業務内容

(1) 生化学検査

主に、採血された血液を遠心分離し測定している。測定内容は、肝機能検査(AST ALT y-GTP など)、腎機能検査(BUN CRE など)、脂質検査(総コレステロール LDL コレステロール

盾買検査 (総コレステロール LDL コレステロールなど) 、糖尿病検査 (血糖 HbA₁C など)、心筋マーカー (トロポニン T CK-MB など) である。

(2)血液検査

血液形態や貧血のチェックとして、末梢血液細胞の算定や形態学的検査をし、精査として骨髄像の形態学的な検査を行っている。又、止血機能のチェックとして、凝固検査・線溶検査を行っている。病棟・外来への出張検査も行っている。

(3) 血清検査

B型肝炎、C型肝炎ウィルス等の感染症の測定、インフルエンザ・ノロ・RS 等のウィルス検出検査、腫瘍マーカー測定、プロカルシトニンなどの検査を行っている。

(4) 一般検査

尿中の有形成分および化学成分の分析、糞便からは消化管からの出血や寄生虫の検出などを行っ

ている。又、妊娠反応・精液検査AIHなども行っている。

(5) 細菌検査

色々な検体から病原菌を見つけ、その病原菌に 対し効く抗生剤の感受性検査を行っている。最近、 結核菌の陽性検出率が高くなっている。

(6) 病理・細胞診検査

病理検査の内容は、①手術や内視鏡等で採取した組織を固定後、2-3 µmに薄切り染色し、

顕微鏡にて良悪の診断をする病理組織検査②尿や 乳腺甲状腺などの体内の細胞を採取し5段階で判 定をする細胞診検査③亡くなられた患者さんの死 因を解明する目的で行う病理解剖、の3つに分け られる。

(7) 生理検査

循環器系の検査では、心電図、ホルター心電図、 心臓・血管超音波検査、血圧脈波検査 呼吸機能 検査、睡眠時無呼吸症候群検査などがあり、緊急 時の検査・治療にも24時間対応しています。神経 系の検査では、脳波、神経伝導速度検査がある。 また、耳鼻科外来に出向いての聴力検査、めまい 検査も行っている。

(8) 輸血

血液センターから送られてくる血液製剤を一元 管理するとともに「安全な輸血」と「限られた血 液製剤の有効利用」を目的として24時間体制で取 り組んでいる。

(9) 臨床支援

健診・保健科の採血業務、予約採血管の配布、 新生児の AABR、SMBG の指導、SMBG 機器の一元管 理などを提供している。

(10) 委員会活動

輸血療法委員会、感染対策委員会、NST委員 会などに情報を提供している。糖尿病ケアチーム での活動にも参加している。

(11) 弘前大学との共同研究

『緊急被ばく医療における線量評価と医療被ばく 評価への応用』として、当院放射線科とも共同で ヒト培養リンパ球を用いた生物学的線量評価・酸 化ストレスマーカー測定などを行っている。

まとめ

中央検査科の業務内容から、今後生理検査の業 務拡大が考えられる。臨床支援につなげるために も、研修会などに積極的に参加できるよう環境を 整備し、スキル向上に努めたい。

表 1 平成 27 年度 中央検査科 業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
臨床化学	95,661	90,496	103,791	98,193	94,503	91,460	102,029	94,528	92,854	93,359	92,477	96,632	1,145,983
血液	37,819	34,222	39,803	37,448	36,332	35,170	39,521	36,240	35, 459	35,352	35,681	38, 324	440,371
血清	8,598	7,796	9,100	9,358	7,722	7,738	8,444	7,914	7,662	8,283	8,193	8,930	99,421
一般	4,246	4,042	4,794	4,252	4,220	4,203	4,371	3,962	3,857	3,792	3,792	4,067	47,144
AABR	32	26	23	26	19	33	23	26	29	20	20	18	295
生理検査	3,272	1,894	2,200	2,157	1,912	1,880	2141	1,887	1,801	1,943	1,774	2,126	23,787
生理耳鼻科	215	216	223	212	227	209	263	211	147	211	198	200	2,532
病理組織	234	230	296	328	283	273	315	283	308	266	261	263	3,840
細胞診	381	345	416	383	398	402	452	344	393	341	385	330	4,570
細菌	1,296	1,319	1,581	1,484	1,462	1,450	1,577	1,293	1,476	1,442	1,426	1,423	17,229
外部委託	2,571	1,838	2,332	2,483	2,197	2,160	2,417	2,213	1,998	2,121	2,171	2,334	26,835
遺伝子培養	2	2	1	1	2	2	1	3	1	0	1	4	20
酸ストレス	2	2	1	1	2	2	1	3	8	12	14	8	59
検体検査管理	673	686	729	707	703	720	729	682	688	647	690	669	8,323
加算Ⅱ													